

大正駅(JR環状線)②

朝鮮通信使ゆかりの尻無川を知る

大正駅(地下鉄長堀鶴見緑地線)

「大阪あそび歩マップ集」
その3 No.129

JR・地下鉄大正駅

かつての大正区は木津川、尻無川によって大阪市中から切り離されて島のように浮かんでいましたが、大正橋の架橋によって市中と連結して地域の発展に繋がりました。駅名もその大正橋に由来しています。

①大正橋

大正4年(1915)架橋。現在の橋は昭和49年(1974)に架け替えられたもので欄干にベートーベン作曲の交響曲第九の譜面、歩道にはメトロノームの堰堤、歩道部分の路面にはピアノの鍵盤がデザインされています。これは第1次大戦後に大正区に大阪俘虜収容所が設置され、大正区民とドイツ人捕虜が交流したことに因みます。



②大地震両川口津波碑

嘉永7年(1854)の大地震で水上なら安心と小船や茶船に乗って避難する人が数多くいました。ところが大阪湾に海嘯現象(河口に入る潮波が垂直な壁となって河を逆流する)が発生して多くの人が波に呑まれ、甚大な被害を及ぼしました。石碑は惨状と教訓を後世に残すべく、地震・津波時の心得を記しています。

③岩松橋

豪商・福西岩松が架橋したので岩松橋と名づけられました。橋下を流れるのは岩崎運河で、これは大正9年(1920)に開削されたものです。

④尻無川南岸直通路開通記念の碑

北恩加島までの産業道路で、泉尾で貸家事務所を営んでいた大井伊助が全額寄付で完成させたことを記した顕彰碑です。



⑤御船蔵跡

幕府の官船などを納める施設で、川御座船などもここにありました。漆塗りの屋形で、金銅の金具や豪華な装飾を施し、櫓と棹

で航行する川船で、朝鮮通信使は大船を停泊させて川御座船に乗り換え、大坂市中に向かいました。

⑥尻無川

江戸時代の尻無川は、朝鮮通信使が利用する公的な水路であったので、「唐人溝」と呼ばれていました。また鯉釣りが非常に有名で、『摂津名所図会』にも釣りを楽しむ人々の姿が活き活きと描かれています。『浪華の賑ひ』には「此堤に黄蘆多く列なれり。紅葉の頃は錦色川水に映じ、せん望又類ひなし。また春、弥生の潮干には蛤、蜆を取らんとして来る人夥し」と秋は蘆の紅葉、春は潮干狩りといった遊興で賑わったことが記されています。

⑦泉光園(豊田織機跡)

金光教泉尾教会の境内地にあります。約6000坪もの敷地を誇る広大な庭園で表門に大坂城の残念石が置かれています。かつては豊田自動織機(現・トヨタ)の工場がありました。

JR・地下鉄大正駅

